

◆【全訳】(本文の精密訳)

息子が生まれたとき、私は「教える」ということの意味を理解しているつもりだった。導き、説明し、学びという壊れやすい秩序を守ることだと信じていた。知識とは、理性と忍耐に包まれた貴重な家宝のように、慎重に受け渡せるものだと考えていた。しかしまもなく気づいた。子どもは教えによってではなく、出会いによって学ぶのだ——誤りや笑い、そして挑戦することの尽きない喜びを通して。

(1) ある晩、息子が曲がった釘とずれた糊で木の玩具を作っていた——それは、失敗と成長が静かに役を演じる、壊れやすい学びの小さな劇場のようだった——。そのとき私は、ほとんど敬虔な思いで悟った。彼の過ちは授業の欠陥ではなく、授業そのもの、生きたかたちで私の目の前に展開する学びそのものだったのだ。その瞬間、デューイが語った「教育とは人生への準備ではなく、人生そのものである」という言葉の意味を理解した。知恵は支配ではなく参加に始まり、まだ世界を発見しつつある者と不確かさを分かち合う意志のうちに芽生えるのだと。

(2) 「他者が自由に成長するのを静かに見守る」という、終わることのない穏やかな務め——それは責任に劣らぬ重荷であり、その重荷が私に課されたのは、子が親の沈黙に寄せる不思議で澄んだ信頼によってだった。子が知らぬままに信じるように、親も確信のないままに導く——そして、そうしているうちに双方は、そのあいだを静かに流れる同じ光によって教育されていくのだ。木の香りと小さな勇気のぎわめきに満ちたその作業場で、私は学んだ。教育するとは、他者の道を形づくることではなく、その隣を歩むこと——導きを減らすことで、より多くを与えることなのだ。

Q1.(下線部①の和訳)

(1) 原文

One evening, as he built a wooden toy with crooked nails and misplaced glue—a fragile theatre of learning, where failure and growth played their quiet parts—I realized, almost with reverence, that his mistakes were not flaws in the lesson, but the lesson itself, alive and unfolding before my eyes.

【訳】

ある晩、息子が曲がった釘とずれた糊で木の玩具を作っていた——それは、失敗と成長が静かに役を演じる、壊れやすい学びの小さな劇場のようだった——。そのとき私は、ほとんど敬虔な思いで悟った。彼の過ちは授業の欠陥ではなく、授業そのもの、生きたかたちで私の目の前に展開する学びそのものだったのだ。

【解説】

- as he built …:同時進行の「付帯状況」。主節 *I realized* の背景を描く。
- —a fragile theatre of learning—:挿入(ダッシュ)で比喩説明。「学び=小劇場」。
- almost with reverence:副詞句挿入。気づきの感情の格を上げる。
- not A, but B:対比構文。*flaws in the lesson* ⇔ *the lesson itself*。
- alive and unfolding …:分詞句で直前の *the lesson itself* を後置修飾。「生きて今まさに展開している」。

Q2.(下線部②の和訳)

(2) 原文

No less a burden than the quiet, ceaseless duty to let another human being grow freely was forced on me by the strange, luminous faith that a child places in a parent's silence—as children trust without knowing, so do parents guide without certainty, and yet, as they do, both are educated by the same quiet light that passes between them.

【訳】

「他者が自由に成長するのを静かに見守る」という、終わることのない穏やかな務め——それは責任に劣らぬ重荷であり、その重荷が私に課されたのは、子が親の沈黙に寄せる不思議で澄んだ信頼によってだった。子が知らぬままに信じるように、親も確信のないままに導く——そして、そうしているうちに双方は、そのあいだを静かに流れる同じ光によって教育されていくのだ。

• 【解説】

- No less a burden than ... was forced on me ...: 比較表現を主語化した前置(荘重)。「～に劣らぬ重荷が私に課された」。
- was forced on A: 受動+on で「(重荷などが)A へのしかかる」。
- by the ... faith that ...: 受動の行為者 by. *that* は *faith* を修飾する関係代名詞。
- as children ..., so do parents ...: as-so 構文(対応・対称)。「子が～するように、親も～する」。
- and yet, as they do, ...: 挿入。行為の継続中に起こる相互学習を示す。

- that passes between them: *light* を修飾する関係節。「二者のあいだを通う光」。

◆ Q3.(内容理解・英語 1～2 文)

-  Model Answer

The father learns that education is not imposed by instruction but awakened through shared experience. He realizes that guiding a child means walking beside him—trusting uncertainty, allowing mistakes, and discovering that both parent and child are educated in the same quiet light.

【日本語訳】

父は、教育は教示によって押しつけられるものではなく、経験の共有を通じて呼び覚まされるものと学ぶ。子どもを導くとは、その隣を歩むことであり、不確かさを信頼し、失敗を許し、親子が同じ静かな光のなかで共に教育されていくのだと悟る。

【解説】

- is not imposed ... but awakened ...: *not A but B* に派生した受動対比で理念を明確化。
- means walking beside him: 動名詞で定義節を簡潔化(「導く=隣を歩むこと」)。
- trusting uncertainty / allowing mistakes: 等位の現在分詞で並列(行為指針を簡潔に)。
- both ... are educated: 本文②の結語を正確に要約。

Q4.(自由英作文)

◆【80 語モデル】(東大・阪大・神大向け)

【Agree 80-A】(賛成①)

(English)I agree that education is life itself. We learn not only by listening but also by doing and trying again after failure. When I helped my classmate with math, we both learned more when we solved problems together and talked about our mistakes. That experience changed us. Schools should give more time to group work and projects, because real learning happens when we share ideas and try to understand each other.

【日本語訳】私は「教育は人生そのものだ」という考えに賛成する。私たちは聞くだけでなく、行動し、失敗して再挑戦することで学ぶ。クラスメートの数学を手伝ったとき、問題を一緒に解き、間違いについて話したときに、互いにより多くを学んだ。その経験が私たちを変えた。学校はグループ活動やプロジェクトにもっと時間を割くべきだ。真の学びは、考えを共有し、互いを理解しようとするときに起こるからだ。

【解答のポイント】① 構成

- 第1文:主張(明確に“I agree”でスタート)。
- 第2~3文:理由と具体例(自分の経験を使うことで説得力)。
- 第4文:結論(教育現場への提案)。→「意見→理由→例→結論」がきれいに成立。

② 文法・構文

- *not only A but also B*:「聞くだけでなく~する」

- *when we solved problems together*:副詞節で原因を表す。

- *because* …:理由を導く接続詞、自然で平易。

③ 語彙・表現

- “group work / projects / share ideas” は教育分野で頻出の自然表現。
- “real learning happens when …” は定型的で明快。

④ 内容・論理性

- 単なる賛成ではなく、自分の経験で補強。
- 「協働」と「相互理解」を結びつける点が評価されやすい。

⑤ 採点者が評価する点

- 主張と例の一貫性。
- “That experience changed us.”の短い一文が印象的で、文体のリズムも良い。

【Agree 80-B】(賛成②)

(English)I also agree because learning becomes real only through experience. When I joined a volunteer group, I first knew the plan, but I understood more after meeting people and listening to their stories. Books can give us facts, but people give us meaning. Therefore, schools should not focus only on tests. They should also let students act, speak, and learn from the world around them.

【日本語訳】私はこの考えに賛成だ。学びは経験を通してこそ本物になる。ボランティア活動に参加したとき、最初は計画を知っていただ

けだったが、人々と会い、話を聞くことでより深く理解できた。本は事実を教えるが、人は意味を教える。したがって学校はテストだけに集中すべきではない。生徒が行動し、話し、世界から学ぶ機会を与えるべきだ。

【解答のポイント】① 構成

- 1文目:主張+理由(“because”で簡潔に提示)。
- 2~3文目:具体例(ボランティア活動)。
- 4~5文目:一般化と結論(学校教育への提言)。

② 文法・構文

- *When I joined ...*:体験導入の定番構文。
- *Books can give us facts, but people give us meaning.*:対比構文(A but B)。
- *not only ... also ...*:対比と追加をまとめる効果。

③ 語彙・表現

- “learn from the world around them” は抽象度が高いが分かりやすい。
- “facts / meaning” の対立で内容が深まる。

④ 内容・論理性

- 人との関わり→理解の深化、という自然な流れ。
- 「行動と対話」を教育に結びつける論理が明確。

⑤ 採点者が評価する点

- 文章が読みやすく、具体例と一般化のバランスがよい。
- 難語がなくても内容が伝わる「構文的明晰さ」が高評価。

(English)I partly disagree. Life teaches us, but without preparation, experience can be dangerous. For example, doctors and pilots must practice many times before they face real situations, because mistakes can hurt people. Preparation is not a cage; it is a safety net that protects us. Education should first build basic skills and confidence, and then give students a chance to learn from real life.

【日本語訳】私は部分的に反対である。人生は確かに私たちを教育するが、準備のない経験は危険にもなる。たとえば医師やパイロットは、実際に臨む前に何度も練習を重ねる。失敗が人を傷つける可能性があるからだ。準備は檻ではなく、安全網である。教育はまず基礎力と自信を育て、そのあとで実社会から学ぶ機会を与えるべきだ。

【解答のポイント】① 構成

- 第1文:部分否定で柔らかく開始。
- 第2~3文:例示(医療・航空)。
- 第4~5文:比喩+結論。

② 文法・構文

- *without preparation, experience can be dangerous*:条件節が明快。
- *must practice ... before they face ...*:助動詞+時制の整合。
- *Preparation is not a cage; it is ...*:対比+セミコロンで文体に深み。

③ 語彙・表現

- “safety net / confidence / real life” は高校英語でも理解しやすい。

【Disagree 80】(反対)

- *build basic skills* は教育用語として自然。

④ 内容・論理性

- 「準備のない自由」は危険という明快な対比。
- 結論部で“first ... then ...”の手順を提示して論理性を強化。

⑤ 採点者が評価する点

- 主張が穏やかで説得的。
- 修辭的に優れており、80 語でも構成が完結。

◆ 【120 語モデル】(京大・国公立医学部向け)

【Agree 120-A】(賛成①)

(English) I agree that education is life itself. Knowledge tells us what is true, but experience shows us why it matters. When I joined a local health project, I thought I understood the plan, but I learned much more after visiting families and listening to their worries about vaccination. Talking with them helped me connect knowledge with real life. Schools should give students similar chances through fieldwork, teamwork, or reflection. Learning becomes alive when we use what we know to help others and understand their feelings.

【日本語訳】私は「教育は人生そのものだ」という考えに賛成する。知識は何が正しいかを教えてくれるが、経験はそれがなぜ重要なかを教えてくれる。地域の保健活動に参加し

たとき、最初は計画を理解したつもりだったが、家族と会い、ワクチンへの不安を聞くことで、より深く学ぶことができた。人々との対話は、知識と現実を結びつける助けになった。学校も同じように、実地活動や協働、振り返りの機会を生徒に与えるべきだ。知っていることを使って人を助け、その気持ちを理解するとき、学びは生きたものになる。

【解答のポイント】

① 構成

- 1 段落: 主張 + 理由 + 体験例(現場での学び)。
- 2 段落: 提案 + 結論(教育への応用)。

② 文法・構文

- *Knowledge tells us ... but experience shows us ...*: 完全なパラレル構文。
- *helped me connect ... with ...*: 他動詞 + 目的語 + 補語(基本だが強力)。
- *when we use what we know ...*: 名詞節 what + 条件節で抽象性を高める。

③ 語彙・表現

- “fieldwork / teamwork / reflection” = 京大型「教育実践語彙」。
- “help others / understand their feelings” = 人間的共感の締め。

④ 内容・論理性

- 理論と実践の対比。
- 「知識 → 体験 → 理解 → 他者理解」への展開が論理的。

⑤ 採点者が評価する点

- 人間的共感 + 実践的教育論の融合。
 - 最終文 “Learning becomes alive ...” が印象的な結語。
-

【Agree 120-B】(賛成②)

(English) I agree because learning by doing helps us grow faster than memorizing. When I joined a science project, we often failed, but every failure taught us something new. Fixing mistakes together made us more creative and confident. I realized that school should not only give knowledge but also teach how to use it in real situations. If students think, act, and reflect, their learning becomes a part of their life. In this way, education and life become one.

【日本語訳】私はこの考えに賛成だ。行動しながら学ぶことは、暗記よりも速く成長につながる。科学プロジェクトに参加したとき、私たちは何度も失敗したが、そのたびに新しいことを学んだ。一緒に誤りを直すうちに、より創造的で自信を持つようになった。学校は知識を与えるだけでなく、それを現実の場でどう使うかを教えるべきだ。生徒が考え、行動し、振り返るとき、その学びは人生の一部になる。このようにして、教育と人生は一つになる。

【解答のポイント】

① 構成

- 1 段落: 主張 + 根拠 (行動による成長)。
- 2 段落: 具体例 (科学プロジェクト) + 結論。

② 文法・構文

- *learning by doing*: 動名詞構文、教育文脈で頻出。

- *every failure taught us*

something new: 名詞 + 動詞 + 補語の単純明快な文型。

- *not only A but also B* で教育方針を明確に対比。

③ 語彙・表現

- “grow faster than memorizing” は比較級で簡潔。

- “think, act, and reflect”: 三動詞並列でリズムよく締める。

④ 内容・論理性

- 行動を通じた成長 → 教育への応用という論理的構成。

- 失敗を肯定的に扱う点が成熟した印象を与える。

⑤ 採点者が評価する点

- 平易で一貫性のある文章。

- “education and life become one” の最終文が美しい余韻を残す。

【Disagree 120】(反対)

(English) I cannot fully agree with the idea. Life gives us lessons, but learning without preparation can be confusing or even dangerous. In medical training, students first study basic knowledge and practice on models before working with patients. Without that base, they may make serious mistakes. Preparation is not a prison; it is a bridge that connects safety with growth. Education should build strong foundations first and then guide students into real experience step by step. Life completes what preparation begins.

【日本語訳】私はこの考えに完全には賛成できない。人生は確かに多くのことを教えてくれるが、準備のない学びは混乱や危険をもたらす。医学の研修では、学生はまず基礎知識を学び、模型で練習したあとに患者に接する。基礎がなければ重大な誤りを犯すおそれがある。準備は牢獄ではなく、安全と成長をつなぐ橋である。教育はまず強固な基礎を築き、そのあとで段階的に実体験へ導くべきだ。人生は、準備が始めたことを完成させるのだ。

【解答のポイント】

① 構成

- 段落1:主張+理由(準備の必要性)。
- 段落2:具体例(医療)+比喩+結論。

② 文法・構文

- *learning without preparation can be dangerous*:動名詞主語+助動詞で主張を強調。
- *practice on models before working with patients*:順序を明確化する副詞節。
- *Preparation is not a prison; it is a bridge …*:セミコロンで強い対比。

③ 語彙・表現

- “bridge / safety / growth” はシンプルながら印象的な比喩。
- “step by step” で段階的教育の重要性を簡潔に提示。

④ 内容・論理性

- 抽象的な「教育＝人生」への懐疑を、具体例で補強。
- 教育と安全のバランスを重視する論理。

⑤ 採点者が評価する点

- 否定的立場でも柔らかい文調 (“cannot fully agree”)。
- 教育的提案で締める点が成熟している。